

明十一日福島
婦女の貢献
出稼人の貢献
本縣社會課では明十一日縣下職業紹介所長會議を福島市職業紹介所に招集されるが右は去る六日青森市に開催された東北六箇下紹介所関係の打合に出席された今井本縣社會課長の同會報告を兼ねるもの、如く本年の凶作で婦女の身質をなすもの、防止並に一般出稼人の就職斡旋に関する説を綴られる模様であるが同事業は各地方面委員及び青年團幹部に女子青年團には前借にも應じられる方法を講じてゐるが要は該當者の被見が難問題の一つであり此の點が隠れなくされを見出すことの隠喩な方法を研究されるもの、如く同會には尙ほ在郷軍人の職業輔導所關係も出席の由である

十二日會例會
平町十三日會は来る十三日後六時半から四丁目マルト
樓上に於て例會開催の筈であるが今回の講師及び演題左
の如くである
流球台灣旅行談（幻燈寫
にて説明）磐城高女教諭
口彌一郎氏

常識座談會午後二時半開場、午後三時半終了。主講は眞山洋一郎氏、司会は高橋義典氏。講演題は「農業生産の現状と問題」。

は本年九月三十日何故にか
斬裂出たので八方搜査中
あるが今尚ほ所任不明な
物 今十日や者へも近親の大勝
から搜査方を頗出でた
者に懲んで欲しいと今十日
人事相談所を経て金二十圓
寄附された

正無で、形貧賃二協勝一開を、江金が事二三

越の家女將の遺言で寄付五拾圓
平町二丁目裏料理店起の家事持居
主人田中まささんは中耳炎で加療中であつたが藥石効なく去九日午前遂に逝去したが遺族のときさんから遺言によつて今十日左記に寄付した
磐城訓育院へ金十五圓 平
署人事相談所へ金十五圓
二丁目火防組合へ金十圓
平消防組へ金十圓(以上)

本一ムスパンの染色法

(一) 農林省畜産局

ホームスパンの製産は近年本縣下でも弗々數えられて來たが此の加工方面殊に染色法についてはなかく技術を要することであつて之れに對して農林省畜産局の調査を掲げて参考に供する。

現在我が國の羊毛製産量は一千年に二十萬磅だから羊毛の製造過剰は先づない譯であるが過剰の方は海外の關係に左右され易いので農家が自家で加工、販賣することは適策である。しかも北海道、東北のやうな寒地の開拓副業として極めてよいと思ふ。加工は困難な技術を必要とせず從来袖織の經驗をもつ婦人なら同じくつで羊毛が手がかけられるホームスパンはあらゆるものがないのに對して手織としての確味と滋味を具へ最近は需要が増加して來てゐる。我が國でもホームスパンの生産が次第に増えてきたが昭和七年で約一千着ぐらい今後は増加されると思ふ。製造には五月頃刈つた毛のうち上等のものは細が過ぎて細工が難かしいがコリデール種、シロツブシヤーなどは婦人の手で立派に織れる、刈つた羊毛は脂肪、汗などで汚れてゐるから漂め洗ふるには豫め目方をつけて洗ふには豫め目方をつけて

置き次へで湯洗する此時の湯は風呂の湯よりも少し熱い位にし揉んだり引き廻したりせず静かに湯漬する。

産業かる

醤油味噌
たひら正宗
鰹節食料品

お香油
よ...ヤマフル

明治生命磐城代理店 山崎與二郎

電話一本營業部一〇七番

院長 日本歯科
日本歯科
西川 誠

中野歯科醫院

新いわき新聞社

若人向、紳士向
冬の中折帽子とネクタイ

・特選優秀ソフ
・国産ソフト
・セラフィック

にツルヤ 電一四〇

牛も豚も優良品の自慢
二二三層

肉の用命は
御用命は

石炭
豆炭
水野石炭店

平町郵便局通り
支店 電話長三二八
茨城縣關本署前
電話長平湯七三
郵便局前

油槽出張所
平町四丁目

油問屋店

特約販賣

日本株式會社

ガソリン
モビール油
石油株式會社

内科 小兒科
大森醫院
醫學士 大森勇
入院 平町南町 電二五八番
病室完備

產科 婦人科院 長木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
薬局 藥劑師 玄蕃彌一
木村病院 電話一六四番

諸病に快鼻湯 有効
鼻の効能

保証

新規物を
格安にお
譲り致します

新規物を
格安にお
譲り致します